

**ご意見・ご質問コーナーに寄せられたご意見ご質問
(期間：平成24年11月1日～平成24年11月14日)**

福島第一の津波について(追記1)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

国会事故調報告書参考資料に津波襲来時の未公開写真が 11 枚掲載され、その後、2012 年7月9日、東電はそれらを含む 33 枚を公開した(ファイル名 120709_xx.jpg のシリーズ)。4号機の南の廃棄物集中処理建屋から撮影されたもので、2011 年5月 19 日に東電が公表していた 11 枚(110519_1_xx.jpg シリーズ)は同一カメラによる映像の一部だった。その後、2012 年7月 13 日に東電はこれら二つを撮影順に並べ直し(戻し)、新たな画像ファイル(120713_0xx.JPG シリーズ)を公表するとともに、前の 2 つのシリーズを HP から消去した。また、カメラの時刻は正しくないとして、撮影時刻に代えて 1 枚目からの経過時間を表示した。現在公開されている pdf ファイルのアドレスと一連の画像の URL は次の通り。

http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/images/handouts_120709_03-j.pdf

<http://photo.tepco.co.jp/date/2012/201207-j/120713-05j.html>

(続く)

福島第一の津波について(追記2)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

2012年7月13日の東電HPの変更を知らず、事故再考3および5として投稿した文章には、旧ファイル名を記載していたので、ファイル名の新旧対比を追記させていただきたい。

旧ファイル名: 120709_02.jpg

現在のアドレス:

http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_002.JPG

カメラ時刻 15時35分50秒 / 1枚目からの経過時間 34秒

推定時刻 15時29分00秒

国会事故調参考資料 P.72 写真 2.2.3-9

この頃に第1波のピークが防波堤外側の岸壁に達したと推定。

旧ファイル名: 12709_07.jpg

現在のアドレス:

http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_007.JPG

カメラ時刻 15時41分24秒 / 1枚目からの経過時間 6分8秒

推定時刻 15時34分34秒

国会事故調参考資料 P.67 写真 2.2.3-1

第2波フロントの部分の壁波が南防波堤先端の灯台に迫っている。

福島第一の津波について(追記3)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

旧ファイル名: 12709_08.jpg

現在のアドレス:

http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_008.JPG

カメラ時刻 15時41分36秒 / 1枚目からの経過時間 6分20秒 /

推定時刻 15時34分46秒

国会事故調参考資料 P.68 写真 2.2.3-2

第2波フロントの部分の壁波が南防波堤の先端の屈曲部付近を波が乗り越えている。

旧ファイル名: 120709_11.jpg

現在のアドレス:

http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_011.JPG

カメラ時刻 15時42分20秒 / 1枚目からの経過時間 7分4秒 /

推定時刻 15時35分30秒

国会事故調参考資料 P.69 写真 2.2.3-5

第2波フロント部分が防波堤外に着岸し、放水路を逆流し、切妻屋根の建物の北側の地面を突き破って土砂混じりの茶色い水柱を噴き上げた瞬間。

なお、国会事故調では15時42分21秒で、1秒違う。このような1秒の違いが5件あるが、理由は不明である。

福島第一の津波について(追記4)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

旧ファイル: 120709_12.jpg

現アドレス: http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_012.JPG

カメラ時刻 15 時 42 分 24 秒 / 1 枚目からの経過 7 分 8 秒

推定時刻 15 時 35 分 34 秒

茶色い水柱が降り注ぎ、切妻屋根が茶色い。第2波ピークが防波堤突端の灯台に迫る。

旧ファイル: 110519_1_3.jpg

現アドレス: http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_017.JPG

カメラ時刻 15 時 43 分 26 秒 / 1 枚目からの経過 8 分 10 秒

推定時刻 15 時 36 分 36 秒

第2波ピークが防波堤外側に着岸。凄まじい水煙。

旧ファイル名: 110519_1_5.jpg

現アドレス: http://photo.tepco.co.jp/library/120713_99/120713_019.JPG

カメラ時刻 15 時 43 分 54 秒 / 1 枚目からの時間 8 分 38 秒

推定時刻 15 時 37 分 04 秒

第2波ピーク着岸後。重油タンク水没。波高 15.5mと推定。

(事故再考6)福島原発周辺のモニタリングポスト・データについて(1)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

2012年9月21日、福島県は東電福島第一・第二原発と連名で、原発周辺の事故時の空間線量データを公表した。地震の影響でモニタリングポスト(MP)からのテレメーターによるデータ送信は途絶えたが、非常用電源が数日間作動し、データをメモリーカードなどに残していた。これを昨年4月から8月にかけて回収し、読み取り作業を経て公表したものである。特に、3月12日、1号機の爆発前に記録されたいしい双葉町上羽鳥(第一原発の北西5.6km)の1590マイクログレイ毎時という高い値はショッキングであり、各紙で報道された。その後、より詳細なデータが追加発表されるのではないかと見ていたが、どうやらそのような気配は無さそうである。

いくつかの疑問がある。

まず、公表時期。データ回収から1年以上も経っていること。昨年7月20日には、早くも大野局のデータを公表し、他の局のデータも順次公表していくとしていたのに、1年以上経った9月21日まで公表されることはなかった。各事故調の報告書が出そろうまで押さえていたと疑われても仕方ない。実際、どの事故調も、このデータを知らなかったと思われる。

(事故再考6)福島原発周辺のモニタリングポスト・データについて(2)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

次の疑問は、1時間データしか公表されていないこと。しかもグラフだけで表形式ではない。昨年公表された大野局のデータは、2分、10分、1時間の3種類の値が表形式で公開されている。大野以外の局は1時間データだけしか回収できなかった、とは考えにくい。2分と10分データは意図的に隠蔽されているのではないかと疑われる。公表されたのは1時間の平均値であり、瞬間最大値はもっと高い値だったはずだ。センセーショナルに報道されるのを嫌って、一番低い1時間値だけを公表したのではないかと疑われる。また、風向や風速のデータなども公表されていないが、どうなっているのだろう。

上羽鳥の1590マイクログレイ毎時は、3月12日15時台の1時間平均であり、ほんとうに1号機の爆発(15時36分)より前の測定か明確ではない。風向きから、報道されたように爆発直前のベントで放出された放射能の影響と思われるが、2分や10分間隔のデータがあれば、爆発の前かどうかははっきりするはずだ。

(事故再考6)福島原発周辺のモニタリングポスト・データについて(3)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

上羽鳥の高線量が1号機のベントによるものならば、すでに圧力抑制プールの水は蒸発して無くなっていたと思われる。通常、圧力容器の蒸気をドーナツ状の圧力抑制プールの水に通して冷却・凝縮する。同時に放射能をプールの水に溶かすのでフィルター役割も担っており、放出される放射能はかなり低減されるはずである。その効果を期待して、格納容器ベントではなく圧力抑制室ベントを選択したはずで、プールには水があると思込んでいたと想像される。同じ理由で、ベントによる放射能の放出量は、建屋爆発による放出量より少なく見積もられていると思われる。

しかし、プールの水が無くなっていたとすると、ベントの方が爆発よりもずっと大量の放射能を放出したと思われる。ベントは14時05分から15時10分まで65分間続いたとされ、この間に格納容器の圧力が0.735MPaから0.52MPaに低下した。約30%の蒸気が放出されたことになる。この蒸気には放射能のほか水素も含まれていた。ベント時に蒸気の一部がダクトを通して建屋に逆流したことは、以前から推測されていたことだが、ますますその可能性が高くなったと思われる。

(事故再考6)福島原発周辺のモニタリングポスト・データについて(4)

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

3つ目の疑問は、福島第一構内にある8つのMPのデータが、すべて回収できなかったこと。地震・津波の影響というだけで、具体的な理由は説明されていない。福島第二のMPデータは、津波の被害を受けたもの以外は回収・公表されている。意図的に第一原発のデータを隠しているのではないのか、という疑念を消すことができない。

このようなデータは、航空機事故のフライトレコーダーと同様、本来なら、しかるべき公的調査機関が回収・分析すべきものであり、警察や検察が押収するような重要な物証である。事故直後のデータが特に重要なのは、半減期の短い放射能の影響も記録しているからだ。また、風向・風速のデータは、放射能の拡散状況を詳しく調べる上で重要である。このデータを、福島県と東電が合同で発表していること自体、たいへん奇妙なことである。